

幾何学概論第二 (MTH.B212)

ガウス方程式・測地線

山田光太郎

`kotaro@math.titech.ac.jp`

<http://www.math.titech.ac.jp/~kotaro/class/2021/geom-2/>

東京工業大学理学院数学系

2022/01/27

ガウス枠

- ▶ $U \subset \mathbb{R}^2$: 領域. 座標を (u, v) と書く.
- ▶ $p: U \rightarrow \mathbb{R}^3$: C^∞ -級正則曲面.
- ▶ ν : 単位法ベクトル場.
- ▶ $\mathcal{F} := (p_u, p_v, \nu): U \rightarrow \text{GL}(3, \mathbb{R})$: ガウス枠
- ▶ $\mathcal{F}_u = \mathcal{F}\Omega$, $\mathcal{F}_v = \mathcal{F}\Lambda$ (ガウス・ワインガルテンの公式)

$$\Omega = \begin{pmatrix} \Gamma_{11}^1 & \Gamma_{12}^1 & -A_1^1 \\ \Gamma_{11}^2 & \Gamma_{12}^2 & -A_1^2 \\ L & M & 0 \end{pmatrix}, \quad \Lambda = \begin{pmatrix} \Gamma_{21}^1 & \Gamma_{22}^1 & -A_2^1 \\ \Gamma_{21}^2 & \Gamma_{22}^2 & -A_2^2 \\ M & N & 0 \end{pmatrix},$$
$$\begin{pmatrix} \Gamma_{11}^1 & \Gamma_{12}^1 (= \Gamma_{21}^1) & \Gamma_{22}^1 \\ \Gamma_{11}^2 & \Gamma_{12}^2 (= \Gamma_{21}^2) & \Gamma_{22}^2 \end{pmatrix} := \frac{1}{2} \hat{I}^{-1} \begin{pmatrix} E_u & E_v & 2F_v - G_u \\ 2F_u - E_v & G_u & G_v \end{pmatrix}.$$

命題 (可積分条件)

$\Omega = \mathcal{F}^{-1}\mathcal{F}_u$, $\Lambda = \mathcal{F}^{-1}\mathcal{F}_v$ は次を満たす :

$$\Omega_v - \Lambda_u - \Omega\Lambda + \Lambda\Omega = O. \quad (*)$$

ガウス・コダッチの方程式

- ▶ 可積分条件は3本の独立な等式.
- ▶ ガウス方程式 テキスト 111 ページ (10.10) 式
- ▶ コダッチ方程式

ガウスの驚異の定理

定理

曲面のガウス曲率は第一基本量によって決まる。
(ガウス曲率は「内的な量」)

系

地球の正確な地図はかけない。

\mathbb{R}^3 の直和分解

曲面 $p: U \rightarrow \mathbb{R}^3$ の単位法線ベクトル ν をひとつとる.

- ▶ $dp(T_{(u_0, v_0)}U) := \text{Span}\{p_u(u_0, v_0), p_v(u_0, v_0)\}$
: (u_0, v_0) における p の接ベクトル空間.

各 (u, v) において

$$\mathbb{R}^3 = dp(T_{(u_0, v_0)}U) \oplus \mathbb{R}\nu(u_0, v_0)$$

なる直交直和分解がある. これに従って $\mathbf{v} \in \mathbb{R}^3$ を

$$\mathbf{v} = [\mathbf{v}]^T + [\mathbf{v}]^N$$

と分解する.

測地線

定義

曲面上の正則曲線 $\gamma(t) = p(u(t), v(t))$ (パラメータは弧長とは限らない) が

- ▶ 準測地線 \Leftrightarrow 各 t で $[\ddot{\gamma}(t)]^T$ が $\dot{\gamma}(t)$ と一次従属.
- ▶ 測地線 \Leftrightarrow 各 t で $[\ddot{\gamma}(t)]^T = \mathbf{0}$.

測地線と準測地線

命題

曲面上の曲線 $\gamma(t) = p(u(t), v(t))$ が,

- ▶ 測地線ならば, $|\dot{\gamma}(t)|$ は t によらず一定である.
- ▶ 準測地線ならば, パラメータを弧長に取り替えれば測地線である.

測地線と準測地線

例

- ▶ 曲面上にのっている直線が存在するならばこれは準測地線である.
- ▶ 球面の大円（中心を通る平面と球面の共通部分）は準測地線である.

測地線の性質

事実

- ▶ 曲面上の2点を結ぶ曲線のうち、長さ最小のものが存在するならばそれは準測地線である.
- ▶ 曲面上の点 $P = p(u_0, v_0)$ に対し、 $\gamma(0) = P$,
 $\dot{\gamma}(0) = \mathbf{v} \in dp(T_{(u_0, v_0)}U)$ となる測地線 γ が十分小さい t の範囲でただ一つ存在する.

問題 6-1

問題

曲面 $p(u, v) = (u, v, 0)$, $q(u, v) = (u \cos v, u \sin v, v)$ の第一基本量, 平均曲率を計算して, 平均曲率が「内的な量」でないことを示しなさい.

問題 6-2

問題

曲面 $p: \mathbb{R} \times (0, \infty) \rightarrow \mathbb{R}^3$ を

$p(u, v) := (\operatorname{sech} v \cos u, \operatorname{sech} v \sin u, v - \tanh v)$ で与えるとき,

uv -平面上の曲線 $L_a := \{(u, v); u = a, v > 0\}$,

$C_{a,b} := \{(u, v); (u - a)^2 + \cosh^2 v = b^2, v > 0\}$ に対応する曲面上の曲線は準測地線であることを示しなさい. ただし $a \in \mathbb{R}$, $b \in (1, \infty)$ は定数である.